

露地・早熟用イチゴ品種「北の輝」

本県のイチゴの主要作型である早熟・露地作型は、業務用および生食用として根強い需要があるが、一般に収穫期間は短く、収量が少ないのが現状である。

平成8年8月、野菜・茶業試験場盛岡支場から発表された「北の輝」は従来品種より収量が多く、果実がきわめて硬いため、業務用として高い需要が期待される。

表1 露地栽培における収量(園試)

品 種	株当たり		総収量 (kg/a)	商品果 収量 (kg/a)
	果 数 個	一果重 (g)		
ト 北の輝	36.5	9.0	200	168
6 盛岡16号	18.2	10.6	117	104
ベルルージュ	31.3	9.5	181	151
ト 北の輝	17.0	13.3	134	90
5 盛岡16号	14.8	11.0	96	64
ベルルージュ	23.1	9.6	132	96

「北の輝」の収量は「盛岡16号」より高く、「ベルルージュ」と同等以上となる。
果重は「ベルルージュ」よりやや大きい。

早熟栽培での時期別収量を見ると、収穫開始がやや遅く、初期収量は低くなるが、中後期の収量は高く、収穫期間は後半に長くなる。

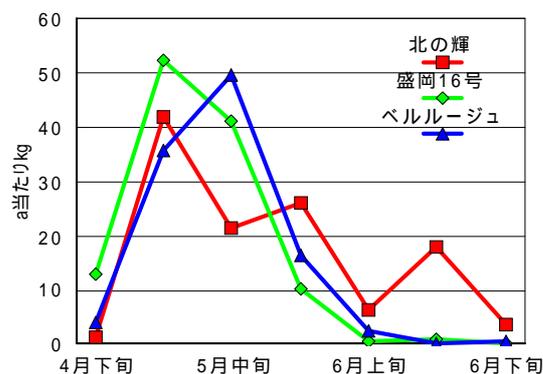


図1 時期別商品果収量(H7 園試南部分場)



写真1 着果状況(野菜・茶業試(盛岡))

果実は円錐形で、果皮色は鮮赤で光沢がある。
果実糖度は「盛岡16号」並で、酸度はやや低い。

収穫後期に高温または草勢が低下する条件下で、種浮き果が発生しやすい。